

TRACE32® : インフィニオン第 2 世代 AURIX™ファミリのサポートを開始

2016 年 10 月 ヘーエンキルヒェン・ジージャーツブルン

マイクロプロセッサ開発ツールのトップメーカーであるローターバッハ社は、業界で初めて、インフィニオンの最新ファミリ：第 2 世代 AURIX™に対応した TRACE32 デバッガ・デバッグサポートの提供を開始しました。

インフィニオン社とローターバッハ社の開発者は連携を密にし、マイコン開発に合わせたツールの同時提供を実現しました。業界トップの開発ツールである TRACE32®に直接アクセスして、ローターバッハ社がワールドワイドに提供するプレミアムテクニカルサポートをご利用頂くことができます。

最新の AURIX™ TC3xx ファミリは、パワートレイン、セーフティ、先進運転支援システム (ADAS) といった最新の車載用アプリケーションの要件に応える、インフィニオンの次世代 MCU ファミリのプラットフォームです。チップは、最大 6 個の 32 ビットコア、16MB のフラッシュメモリ、ハードウェアセキュリティモジュール、ジェネリックタイマモジュール (GTM) 、および、スタンバイコントローラを搭載しています。

ローターバッハ社の TRACE32®最新版は、これらの最新デバイスのデバッグ、トレース、フラッシングを既にサポートしており、6 個全てのコアの同期スタート/ストップ、および各コアの独立制御が可能です。また、プログラムフロー、データフロー、DMA コントローラ等のペリフェラルの状態もリアルタイムで記録することができます。

トレースは、オンチップトレースメモリに記録するか、AGBT トレースリンクを使用してローターバッハ社の PowerTrace モジュールに転送します。これらのツールにはもちろん、高級言語でのデバッグやペリフェラルの広範なビュー等が備わっています。

もう一つの特徴として、ハードウェアセキュリティモジュールもサポートしています。TRACE32 PowerView のセカンドインスタンスは、変数およびメモリの確認、実行制御を可能にします。無料アドオンである TRACE32 ICD GTM を使用して、ジェネリックタイマモジュール (GTM) のプログラムフローのデバッグも可能です。さらに、プログラムフローと I/O ピン動作のリアルタイムトレースを記録することができます。また、TRACE32 は、スタンバイコントローラのデバッグ、および、DAP over CAN Physical Layer (DXCPL) を使用した CAN ポート経由のデバッグもサポートしています。

LAUTERBACH, TRACE32 μ Trace and other LAUTERBACH products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of LAUTERBACH. All other product and service names mentioned are the trademarks of their respective companies.